

お知らせ

- 採用情報
- 調達情報
- 情報公開
- 公開講座・研修
- その他

感染症情報

疾患名で探す

- 英字
- ア行
- カ行
- サ行
- 細菌性髄膜炎
- 細菌性赤痢
- サイトメガロウイルス感染症
- サル痘
- サルモネラ感染症
- ジアルジア症
- ジカウイルス感染症
- ジフテリア
- 住血吸虫症
- 重症熱性血小板減少症候群
- シラミ症
- 腎症候性出血熱
- 水痘
- セアカゴケグモ咬症
- 性器クラミジア感染症
- 性器ヘルペスウイルス感染症
- セレウス菌感染症
- 尖圭コンジローマ
- 旋尾線虫症
- 旋毛虫症

- タ行
- ナ行
- ハ行
- マ行
- ヤ行
- ラ行

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは

SFTSは2011年に中国の研究者らによって発表されたブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新しいウイルスによるダニ媒介性感染症である。2013年1月に国内で海外渡航歴のない方がSFTSに罹患していたことが初めて報告され、それ以降他にもSFTS患者が確認されるようになった。SFTSウイルス(SFTSV)に感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こす。検査所見上は白血球減少、血小板減少、AST・ALT・LDHの血清逸脱酵素の上昇が多く認められ、血清フェリチンの上昇や骨髄での血球貪食像も認められることがある。致死率は6.3～30%と報告されている。感染経路はマダニ(フタトゲチマダニなど)を紹介したものが中心だが、血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されている。治療は対症的な方法しかなく、有効な薬剤やワクチンはない。



フタトゲチマダニ *Haemaphysalis longicornis*

感染症発生動向調査で届出られたSFTS症例の概要

2018年8月29日現在
(次回更新予定10月2日)

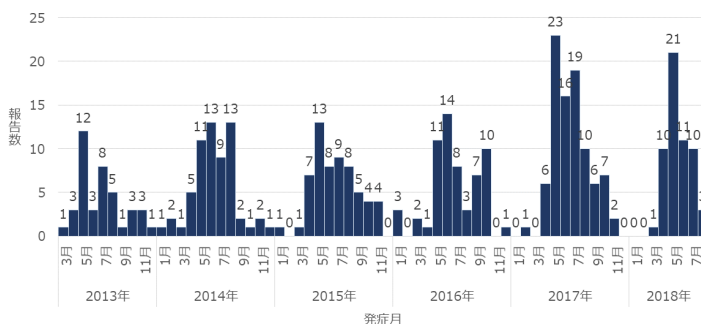
感染症発生動向調査において、前回集計分(7月25日)からの報告数(遅れ報告を含む)の増加は7例だった。これまでに375人の患者が報告されており、男女比は181:194で、届出時点の年齢中央値は74歳であった。発症は5-8月の症例が多いが、2016年など10月まで多い年もあり、2018年も西日本を中心とした23府県から届出されている。なお、感染症発生動向調査で届出が求められる以前に診断された患者のうち4人は報告されていない。

表1. 基本情報 (2018年8月29日現在)

	生存例	死亡例	合計
報告数	312	63	375
性別			
男	148	33	181
女	164	30	194
年齢			
中央値	73 歳	80 歳	74 歳
～20代	3	0	3
30代	7	0	7
40代	8	0	8
50代	19	3	22
60代	88	11	99
70代	92	17	109
80代	81	28	109
90代～	14	4	18

※ 死亡数は感染症発生動向調査の届出時点での情報であることから、正確な死亡数及び算出される死亡率はより高い可能性がある。また自治体による公表情報とは異なる場合がある。

図1. 2013年3月4日以降に届出られたSFTS症例の発症時期 (n=367, 2018年8月29日現在)
※届出対象となる日時以前の発症例8例を除く
(SFTSは2013年3月4日に感染症法で全数把握対象疾患である4類感染症に指定された)



重症熱性血小板減少症候群トピック

重症熱性血小板減少症候群【更新情報】

感染症発生動向調査で届出られたSFTS症例の概要
2018年09月04日

重症熱性血小板減少症候群による死亡症例からの体液曝露感染リスクの検討
2017年08月24日

刺し口痂皮からSFTSウイルス遺伝子を検出した重症熱性血小板減少症候群の1例
2017年08月24日

IASR 37(3). 2016【特集】重症熱性血小板減少症候群. 2016年2月現在
2016年03月29日

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの国内分布調査結果(第二報)
2014年03月24日

<速報>重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの国内分布調査結果(第二報)
2014年02月25日

IASR 35(2). 2014【特集】日本における重症熱性血小板減少症候群
2014年02月20日

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの国内分布調査結果(第一報)
2013年10月25日

家族内発症2名の重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者を含むSFTS患者5名の臨床的特徴
2013年10月25日

山口県の一医療機関における重症熱性血小板減少症候群症例の接触者調査
2013年09月24日

ワ行

- ▶ 感染源や特徴で探す
- ▶ 予防接種情報
- ▶ 災害と感染症

研究・検査・病原体管理

- ▶ 研究情報
- ▶ 検定検査情報
- ▶ レファレンス
- ▶ 抗生物質標準品の交付
- ▶ 感染症検体パネルの交付
- ▶ こちら研究部
- ▶ 画像・映像アーカイブ
- ▶ 感染研年報
- ▶ 国際協力

サーベイランス

- ▶ 感染症発生動向調査週報 (IDWR)
- ▶ 病原微生物検出情報 (IASR)
- ▶ 感染症流行予測調査 (NESVPD)
- ▶ 院内感染 (JANIS)
- ▶ 実地疫学専門家養成コース (FETP-J)

刊行・マニュアル・基準

- ▶ JJID 感染研究の国際学術雑誌
- ▶ 病原体検出マニュアル
- ▶ バイオリスクガイド
- ▶ 生物学的製剤基準
- ▶ 感染研・学友会出版書籍

表2. 死亡数の年次推移 (2018年8月29日現在)

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018
死亡 [†]	14	16	11	8	8	2
生存 ^{**}	26	45	49	52	82	54
総計	40	61	60	60	90	56

[†]死亡年による分類、死亡数は感染症発生動向調査の届出時点での情報であることから、正確な死亡数及び算出される死亡率はより高い可能性がある。

^{**}発症日による分類、届出対象となる日時以前の発症例8例を除く

*死亡は死亡日の記載のあるもの、生存は発症日の記載のあるものを集計しているため、図1 (発症日の記載のあるもので集計)とは数値が若干異なる場合がある。

図2. SFTS症例の届出地域 (n=375, 2018年8月29日現在)

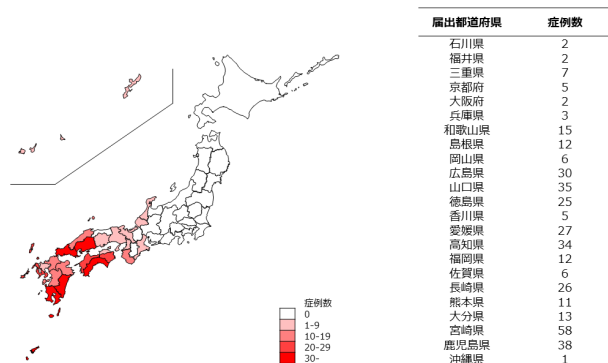
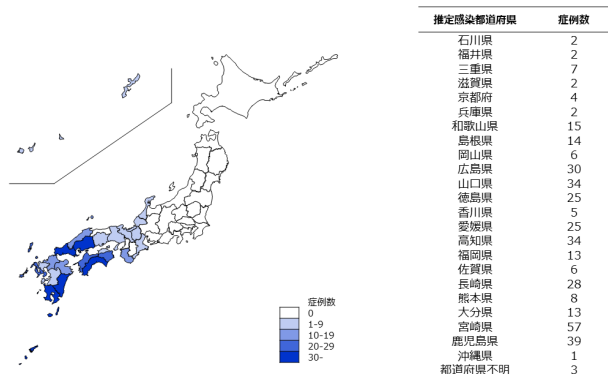


図3. SFTS症例の推定感染地域 (n=375, 2018年8月29日現在)



(国立感染症研究所 ウイルス第一部・感染症疫学センター)

IASR記事

- 2016年03月 [〈特集〉重症熱性血小板減少症候群 2016年2月現在](#)
- 2016年03月 [上記特集関連情報](#)
- 2014年02月25日 [〈速報〉重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)ウイルスの国内分布調査結果\(第二報\)](#)
- 2014年02月 [〈特集〉日本における重症熱性血小板減少症候群](#)
- 2014年02月 [上記特集関連情報](#)
- 2013年10月25日 [家族内発症2名の重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)患者を含むSFTS患者5名の臨床的特徴](#)
- 2013年09月24日 [山口県の一医療機関における重症熱性血小板減少症候群症例の接触者調査](#)
- 2013年08月29日 [〈速報〉重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)ウイルスの国内分布調査結果\(第一報\)](#)
- 2013年07月23日 [フタトゲチマダニ刺咬後に早期診断され良好な経過をたどった重症熱性血小板減少症候群の1例](#)
- 2013年03月14日 [国内で確認された重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)患者8名の概要\(2013年3月13日現在\)](#)

2013年03月07日	国内で初めて確認された重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者に続いて後方視的に確認された2例
2013年01月30日	国内で初めて診断された重症熱性血小板減少症候群患者

厚生労働省による情報

2014年02月25日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの国内分布調査結果(第二報)について(情報提供)(PDF)
2013年08月26日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの国内分布調査結果(第一報)について(情報提供)(PDF)
2013年02月26日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の国内での確認状況について(情報提供)(その3)(PDF)
2013年02月19日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の国内での確認状況について(情報提供)(その2)(PDF)
2013年02月13日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の国内での確認状況について(情報提供)(PDF)
2013年01月30日	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について「結核感染症課長通知」(PDF)
2013年01月30日	重症熱性血小板減少症候群について(PDF)
2013年01月30日	重症熱性血小板減少症候群に関するQ&A(PDF)

関連サイト

- [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)について](#) (厚生労働省)

[重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#)

【一般の方向け】

- [マダニ対策パンフレット「マダニ対策、今できること」](#) (感染研・昆虫医科学部)

【医療関係者向け】

- [「重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)診療の手引き」](#) (国立国際医療研究センター・国際感染症センター・国際感染症対策室)